

「プログラミング ガールズ！」シリーズ第2巻 『ソフィア ロボット・レースに参戦』

石戸奈々子(NPO法人CANVAS理事長)監修 発刊のお知らせ

2019年11月13日、(株)偕成社より石戸奈々子(CANVAS理事長)が監修を務めた「プログラミング ガールズ！」シリーズ第2巻『ソフィア ロボット・レースに参戦』が発売されました。ぜひ貴社媒体を通じて、本書を広くお知らせいただきたく、ご検討くださいますようお願い申し上げます。

概要



物語を楽しみながらプログラミングを学ぶシリーズの第2弾。友だちとの関係や、ハッカソンというイベントのようすを通して、「問題が起きたとき、どのように対処すべきか」「真のチームワークとは?」など、プログラミングに重要なポイントを伝えます。

※原出版国アメリカでは2017年8月の発売後すぐに、NEW YORK TIMES BESTSELLERSの児童書部門第10位にランクインした、新感覚プログラミング小説です。

【あらすじ】

プログラミングのイベント(ハッカソン)に、ソフィアたちプログラミング・クラブのメンバーも初参加することになった。テーマはロボット。評価ポイントは、迷路をはやく、かつ独創的な方法で脱出させること。しっかり者のソフィアは、とりわけ張り切っていた。家では4人姉妹の長女として頼りにされ、アメフト部のマネージャーの仕事もそつなくこなす。競争は大好きだし、問題解决力には自信がある。それに、気になる男子サミーも別のグループで参加するのだ。ところがパパから、当日は両親とも仕事が入ってしまったので、家で妹たちの面倒をみてほしいと頼まれる。「でもわたしなら、なにか解决法が見つけられるはず…」。他のメンバーに言い出せないまま、悩みを抱え込んでしまったソフィアは、ついににっちもさっちもいかなくなり…。

ハルバーストン・ミドル

ここは、アメリカのミドルスクール。日本でいえば、中学校。アメリカでは、小学校1年生から高校3年生までの生徒を1年生・12年生と統てよぶんだ。1~5年生まではエレメンタリースクール（小学校）、6~8年生はミドルスクール（中学校）、9~12年生はハイスクール（高校）とかわかれているよ。



6頁によって、生徒が6年間、中学校が2年間のところもあります。

スクールへようこそ！



6頁

天井じゅうに、かぎりボンがつってあります。かべにはイベントのスポンサー会社の宣伝ポスターがはってあります。ケーキボンや、おもしろい、ハイクイックのポスターまでありますから、口じゅうによだれが出てきた。

「見！」
マヤが、校のポスターを指さした。

あなたの街のソフトウエア会社、
テックタクスは、こじいのタクソンのボンサー
になりました。ほんとに嬉しいです！
最高技術責任者のアーヴィ・カマットが
審査員をつとめます。
テックタクソンの最新商品をアーヴィが紹介します。
お見の新しく！

エリンは、ポスターを見た。

「うわあ、これすごいよね」

「ほんとに」

リーラは、体育館の前のほうを見ていた。
ノートパソコンをたくさんひいたテーブルの通路を、わたしたちがタクネと進んでいった。グループでウロウロしている生徒たちがいたけれど、わたしの知っている子はだれも



いなかった。サミーとチームの子たちは、もうきてるだろうか。

「みんな、こっち」

選手登録のテーブルへと、わたしたちを導いていたマヤがいった。マヤがテーブルの向こうの女性にチーム名をいい、みんなで名札とトートバッグを受けとった。トートのなかには、グラノーラバーと次のペットボトル。りんご、プログラミングの本が入っていた。

わたしたちのわざでこれまでのテーブルは、体育馆の中央にあった。たくさんのチームの子たちのいだめをめぐれ、自分たちのテーブルへむかって走った。だれかがわたしの肩をたたいた。ファティマだった。バスケットボールのキャンプで知りあった女の子だ。

160 chapter9

161

ロージーはわたしにシリアルを投げて、さけんだ。

「ワーシー！ ウーシー！」

わたしは胸をじっと見た。2歳にしてはけっこう觀察力がある。だって、知らあいのなかでなんない何回もベルを鳴らすほせせかちな人は、ただひとりだから。

でも、なんでいううちに、ルーシーがくるわけ？

「もじシリアルあげちや、だめだからね」と注意して、走つていてドアをおいた。

「おおう！」

ルーシーはがたうとうにいった。ロッキン・ロボットのTシャツを着て、手にはうさをもっている。

「えっ？」

わたしは、早く目をさまそうとして、目をしばいた。

「ルー、ここでにじるの？ まだ朝の8時前だよ。しかも土曜日だ！」

「おおう！」

ルーシーは大きな声でそういうと、わきによけた。するとエリン、マヤ、リーラがげんげんにいる。みんな、しげのうしろにかくれていたいちいちいない。ルーシーは、すぐそばをとおすててお祈にいった。

リーラはニヤッとした。



168 chapter8

169

「基本に水やりをする、ローラが魚にエサをやるのをつだう……」

バババッキを切ったので、指を停止ボタンの上にうかせた。

バババッキが終わるのを期待した。

「ソフィアは、ものごとを管理するのがうまい」

バババッキ。

「だから、妹たちにてつたつてもらうといい。いつものよう

にゲームみたいにすれば、きっとうまくいくさ」

バババッキ。

「まあ、たまには、あなたの子たちが勝つかかもしれないけど」

わたしは、録画をためて原帯をおろした。いくらわたしはたくさんの用事をこなせるといつても、これは、おそらく長いリストだった。

今度じめたとしても、ハッカソンの前に全部できるはずがない。モニターのうででひね折れてくれた流れの条件について説明してくれしないとかかっている。

吸引は吸引だし、バババッキをまげる人ではなかった。

それでわかった。わたしはみんなに、ハッカソンは無理だ

と話さなくてはならない。

chapter 8



その後、わたしはロッキン・ロボットのみんなにメッセージを送った。もうじゅうぶん時間を使っていた。おもいきって、うちあけるときだ。

わたし、あしたいけない。

1秒まって、次のメッセージを送った。

ソフィア
南から、妹たちの世話をもってほしいって、このうれ、なんとかようそしたけど、だめだった。

マヤがすぐに返事をくれた。

ソフィア
えっ？ ハッカソンにいかなないってこと？

170 chapter7

171

シリーズは全4巻で、語り手が各巻で交代していきます（1巻はルーシー、2巻はソフィア、3巻はマヤ、4巻はエリン）。

2020年3月までに順次、刊行予定）。家庭の事情があつたり、じつは適応障害をかかえていたりなど、人には言えないそれぞれの悩みが明かされていきますが、いつも涙ぐましいまでに一生懸命な彼女たちの姿は新鮮で、魅力的です。今後の展開にも、どうぞご期待ください！

【書籍データ】

「プログラミング ガールズ！」シリーズ第2巻『ソフィア ロボット・レースに参戦』

ステイシア・ドイツ（著）、美馬しょうこ（翻訳）、高橋由季（イラスト）、石戸奈々子（監修）

発売日：2019年11月13日

定価：1,200円+税

ISBN:978-4-03-726930-2

発行元：（株）偕成社

Amazon: <https://www.amazon.co.jp/dp/4037269309>

偕成社サイト: <https://www.kaiseisha.co.jp/books/9784037269302>

★第1巻『ルーシー なぞのメッセージを追え』も好評発売中！★

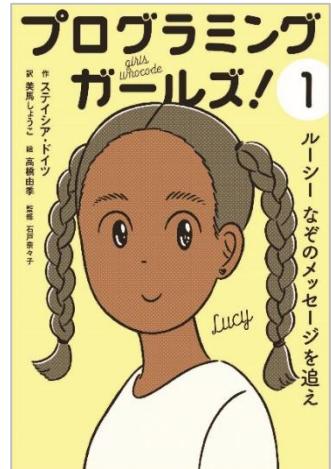
「プログラミング ガールズ！」シリーズ第1巻

ステイシア・ドイツ（著）、美馬しようこ（翻訳）、高橋由季（イラスト）、石戸奈々子（監修）

発売日：2019年6月21日

Amazon：<http://u0u1.net/Xxz0>

偕成社サイト：<https://www.kaiseisha.co.jp/books/9784037269203>



【監修者プロフィール】



石戸奈々子（いしど・ななこ）

NPO法人CANVAS理事長/株式会社デジタルえほん代表取締役

慶應義塾大学教授、博士（政策・メディア）

東京大学工学部卒業後、マサチューセッツ工科大学メディアラボ客員研究員を経て、NPO法人CANVAS、株式会社デジタルえほん、一般社団法人超教育協会等を設立、代表に就任。慶應義塾大学教授。総務省情報通信審議会委員など省庁の委員多数。NHK中央放送番組審議会委員、デジタルサイネージコンソーシアム理事等を兼任。政策・メディア博士。

著書に「プログラミング教育ってなに？ 親が知りたい45のギモン」「子どもの創造力スイッチ！」他、監修に「どんどんめくってはっけん コンピュータのひみつ」「さわって学べるプログラミング図鑑」など。

これまでに開催したワークショップは3000回、約50万人の子どもたちが参加。

実行委員長をつとめる子ども創作活動の博覧会「ワークショップコレクション」は、2日間で10万人を動員する。

デジタルえほん作家＆一児の母としても奮闘中。

<http://www.canvas.ws/nanako/>

本件に関する一般及び報道機関からのお問い合わせ先

特定非営利活動法人CANVAS

CANVASは子どものための創造・表現の場を提供し、豊かな発想を養う土壤を育てることを目標として設立されたNPOです。これまで50万人の子どもたちにワークショップに参加いただきました。子どもたちに新しい表現を生み出してほしい、新しい世の中を築いていってほしい。そんな願いを叶えるため、産官学さまざまなプレイヤーのみなさまと連携しながら「未来をつくる」プロジェクトを生み出しています。



CANVASホームページ <http://www.canvas.ws>

問い合わせメールアドレス information@canvas.ws